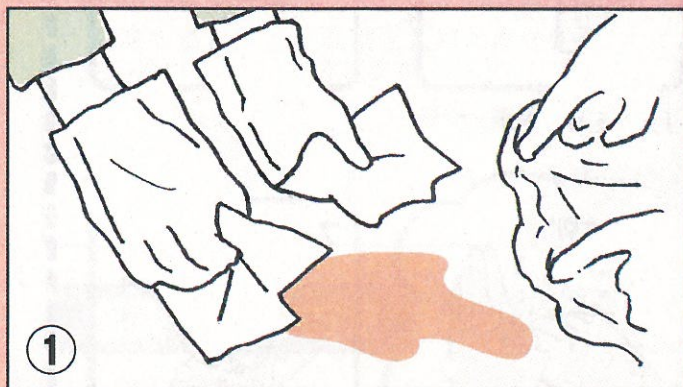
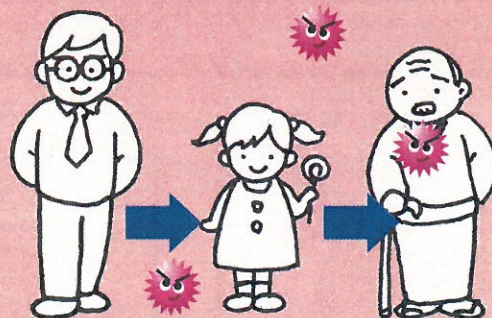


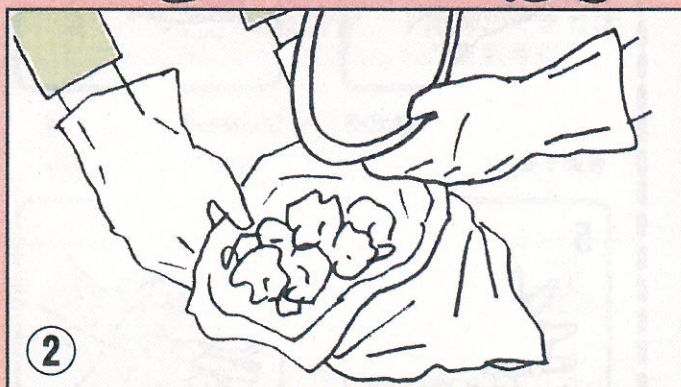
適切なおう吐物処理

ノロウイルスは乾燥に強く、正しく処理されなかった吐物に生き残ったウイルスから感染したり、また、トイレの水圧で飛びはねたふん便からも感染します。ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、おう吐物やふん便は乾燥しないうちに床等に残らないよう速やかに処理し、ノロウイルスを飛散させない方法をとることが必要です。



①

ペーパータオルでおう吐物の上を広い範囲で覆い、その上に、1000ppm 次亜塩素酸ナトリウムを注ぎ、10分間程度放置する。使い捨ての手袋とマスク、ガウン（エプロン）を着用し、おう吐物は使い捨ての布やペーパータオル等で飛び散らないよう外側から静かに拭きとる。



②

使用した使い捨ての布やペーパータオル等は、すぐにビニール袋に入れ密閉して廃棄する。（この際、ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の 1000ppm 次亜塩素酸ナトリウムを入れることが望ましい。）



③

吐物が付着していた床とその周囲は、1000ppm 次亜塩素酸ナトリウムをしみ込ませた布やペーパータオル等で拭き、その後水拭きする。じゅうたん等すぐに洗濯できない場合は、スチームアイロン等の熱で殺菌する方法もあります。



④

処理後は手袋をはずして手洗いをする。手袋などは、使った布やペーパータオル等と同じようにビニール袋に密閉して廃棄する。

POINT

- おう吐物処理後、2～3日は感染の有無に注意！
- おう吐物処理時とその後も、換気を忘れずに！